

## 白方小学校だより

# 白方の風

【学校教育目標】自ら学び考え、心豊かで  
健やかに生きる児童の育成

令和7年度  
No.41  
東海村立白方  
小学校  
2026.2.20  
児童数452人

逃げるようにはやく過ぎていく2月とも言われますが、2月も下旬に入りました。暦では28日間しかない2月であるため、残り8日で3月を迎えます。春が近づいてきている様子が、いにしえガーデンの樹木に芽生えた新芽からうかがい知ることができます。

また、本日は授業参観・懇談会へのご参加、誠にありがとうございました。昨年4月のお子様のお姿と比較するとその目覚ましい成長のご様子に感慨もひとしおかと存じます。

今年度の残りの日々も、一人一人の児童の力を最大限に引き出し、伸ばせるよう力を尽くして参ります。

### 東日本大震災

～ 15年前に大きな地震がありました。 ～

2011年3月11日北海道・東北から関東の太平洋沿岸を大きな揺れと津波が襲った東日本大震災が起きました。ここ東海村でも大きな被害を受けて、建物の倒壊や道路の陥没、水道水の断水などが起きました。その際に白方小学校も避難所となり、多くの住民の方が避難してきました。学校では、水道管の破損による断水状態がしばらく続きましたが、屋上の貯水タンクに貯めてあった水がしばらくの間水道の蛇口から出てきていたため、その水をバケツや給食室の大きな鍋に貯めて、その水をバケツにひしゃくで汲み直して、トイレを流す水に使用しました。水が出ないためにお風呂に長く入れない日が続いていたため、新生児が産湯に入ることができない状況であったため、地域の方が、コミュニティーセンターで焚き火でお湯を沸かし、そのお湯を使って新生児を産湯に入れたといった記録も残っています。



大きな災害が起きた時にみんなで助け合っ、難しい状況を乗り越えることを「共助」と呼ぶことがあります。災害の際には、まずは自分の命は自分で守る、津波の場合はできるだけ早くまずは高台に逃げるといったことを第一に行い、もし自分の命が助かり、余力があるのであればみんなの為になることに少しでも力を尽くすことができる人になっていただければと思っています。3月11日の給食の時に、東日本大震災に時の話を少し紹介しながら、災害時に助け合うことの大切さをお伝えしたいと思います。

### 6年生との給食会食

～ 白方小の歴史を少し紹介しています。～

6年生が間もなく卒業されるため、給食の会食を一緒にさせていただいております。その際に白方小の歴史について紹介しています。

白方小学校は、東海村ができる前の村松村に、1873年（明治6年）にできた「村松小学校」（今の村松小とは別）が2つの小学校に分かれてできたものです。昭和37年に、児童数が多くなってしまったことから、新たな2つの学校に分かれ、1つは「白方小学校」、もう1つは「照沼小学校」になりました。その後、「白方小学校」の児童数も増えてきたため、1982年（昭和57年）に「村松小学校」ができ、「白方小学校」の南側の学区の児童は村松小へ通うようになりました。さらに、2010年（平成23年）に「白方小学校」の校舎が古くなってきたことから、新しい校舎の「白方小学校」が現在の場所でスタートしました。このように時代と共に、学校も分かれたり、建てかえられたりしてきました。50年後、100年後はどうなっているのだろうか。東海村の未来像を考えながら、学校の未来を想像するととても興味深いです。



### パフォーマンス大会

～ 自分の得意とするものを披露しました。～

2月17日（火）、18日（水）の昼休みに代表委員会が企画したパフォーマンス大会が行われました。自分の得意なものを披露する会です。参加希望者は事前に参加申込を行い、オーディションを受けました。この日はオーディションに合格した17組、総勢57人が得意とするもののパフォーマンスを披露しました。ダンス、九九の暗唱、縄跳び、歌などを披露しました。練習を積み重ねて本番に力を発揮した演技や出し物に、会場の体育館に集まった見学の児童から、温かな拍手が送られていました。

